イギリスにおける 大学ガバナンスへの学生参画

2024年6月28日(金)18:00~20:00 日本比較教育学会第60回大会(名古屋大学) 田中正弘(筑波大学)



>> 目的

- 本発表の目的
 - イギリスにおける大学マネジメントへの学生参画について、その法的な位置付けや、大学と学生の間の同意書の内容について考察する。

>> 学生参画の歴史(1970年代~1990年代)

- ・1970年代に、大学マネジメント(学内の意思 決定組織)への学生参画が多くの大学で認めら れた。
 - 常勤の学生代表である、「サバティカル・オフィ サー」(sabbatical officer)制度が普及した。
 - ただし、学生代表全体の参加は低調で、発言も活発とはいえなかった。
 - 大学マネジメントへの学生参画は形骸化していた (Day and Dickinson 2018)。

>> 学生参画の歴史(2000年代)

- ・ボローニャプロセスの流れの中で、質保証への 学生参画が推奨されるようになった。
 - 1998年に「21世紀に向けての高等教育世界宣言」 (ユネスコ)が出される。
 - 2005年に「欧州高等教育圏における質保証の基準 とガイドライン」(ESG)が公布される。

>> 学生参画の歴史(2010年代)①

- 2011年に、白書「学生を制度の中心に」 (Department for Business Innovation & Skills 2011) が公布される。
- 2012年に、「高等教育質保証機構」(QAA)が「クオリティ・コード」第5条「学生参画」を発表した(2018年に改訂版が出される)。
 - 「大学は学生個人および学生団体と彼らの学修経験 の質を高めるために,積極的に協働すべきである」 (QAA 2018a: 3)。

>> 学生参画の歴史(2010年代)②

- 「クオリティ・コード」第5条「学生参画」 の 助言・ガイダンス(2018b) によると、
 - 「意思決定組織を含むすべての組織レベルにおいて、 学生の声を効果的に代表する仕組みが整っている」 (QAA 2018b: 5)。
 - 大学は、全学学部学科レベルの運営組織など、あらゆる レベルの意思決定において、学生代表の制度を積極的に 推進支援活用する。
 - (学生の誰が代表として、どのレベルの意思決定組織に 参画すべきかについては、)大学と学生のパートナー シップのもとで決定されるべきである。
 - 委員会構成において、大学は、学生代表がすべての学生 の多様性を代表できるよう支援する(QAA 2018b: 8)。

同意書の 締結

>> 学生参画の歴史(2010年代)③

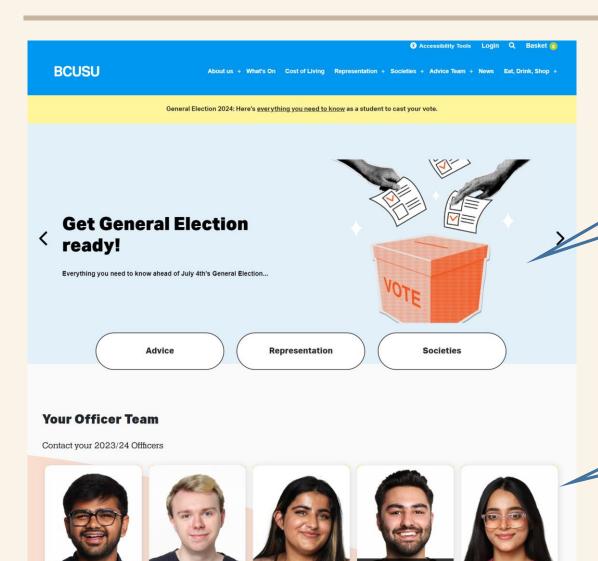
- ・2017年に、「高等教育研究法2017」に基づき、 「学生局」(OfS)が発足した。
 - OfSは、学生の大学との関係を「サービスの顧客であると共に、学修の共同プロデューサー」 (Day and Dickinson 2018: 53) に位置づけた。
- QAAの機関別評価や、「教育卓越性・学修成果評価枠組み」(TEF)において、学生組合は学生側の評価報告書として、「学生意見書」(student submission)を提出する(田中 2024)。

事例

» バーミンガム・シティ大学

- 創立: 1843年 (Birmingham College of Art)
- 改組:1971年 (The City of Birmingham Polytechnic)
- 大学昇格: 1992年 (University of Central England in Birmingham)
- 名称変更: 2007年 (Birmingham City University)
- ・場所:バーミンガム市
- 学生数:約31,000人(2021年度)
- 学生組合 (Birmingham City University Students' Union: BCUSU)
 - 2023年度収入: 3,358,880ポンド(約6億7千万円)
 - ・サバティカル・オフィサー:5名(2023年度)

>> 学生組合(BCUSU)



VP Equity & Inclusion

VP Academic Experience

VP Opportunities &

VP Student Voice

学生代表の 選挙期間中

> サバティカル・ オフィサー

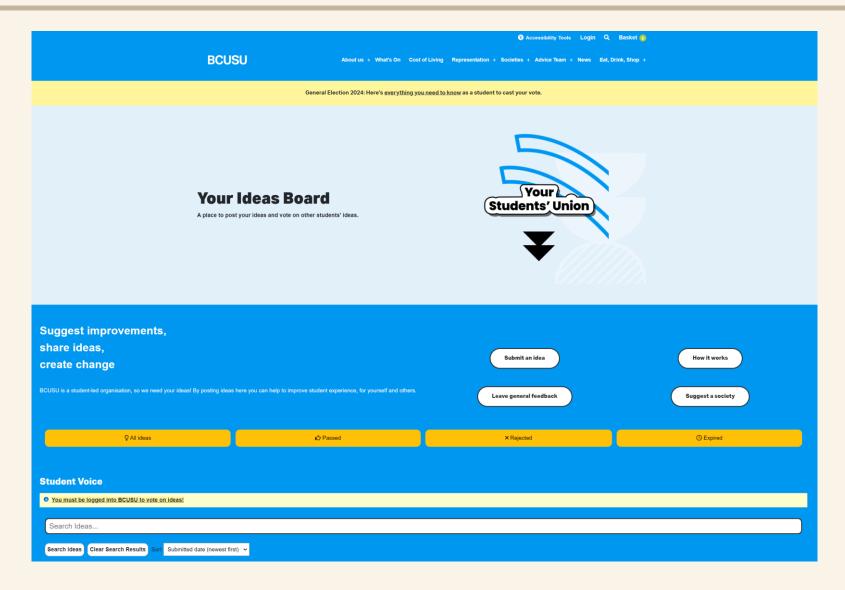
>> 同意書の内容

- ・学生組合と大学の間で学内の学生参画に関する 「同意書」が締結された。
- 同意書 (2015) の概要は以下の通りである。
 - 「大学は、学生と教職員を平等に、かつ尊敬を払い つつ、対等に扱う」。
 - 大学は以下のことを提供する。
 - 学生代表の選出を含め、コース運営への学生参画の支援
 - 学生組合は以下のことをすべきである。
 - 学生の声を代表する。
 - すべての学生が学内で平等に扱われ、権利と責任を認識できるよう 支援する。
 - 内部質保証への学生参加を支援する(特に、コース代表者の**育成と** 訓練を行う)。
 - カリキュラムの内外を問わず、個人的・専門的な能力を高めるための多様な活動を提供する。

>> 意思決定組織への参画 (例)

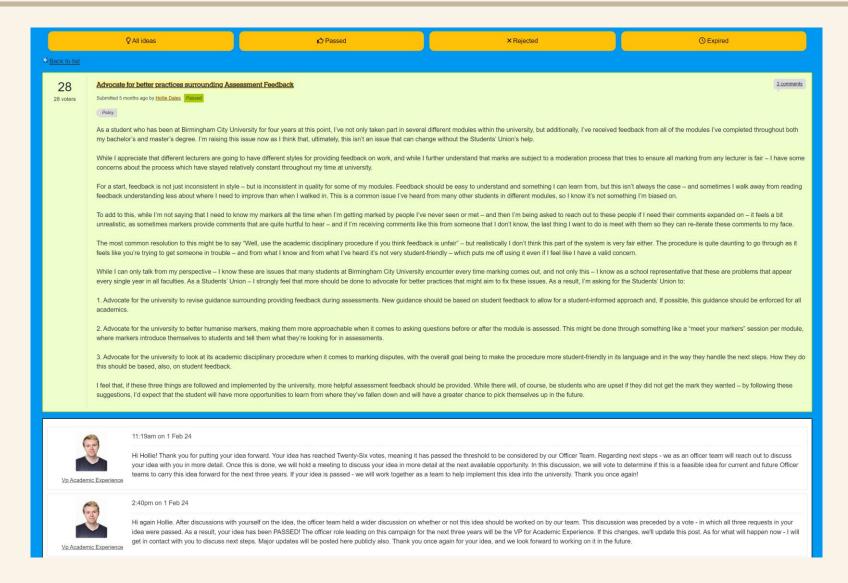
- 理事会
 - 理事:13名
 - 教員代表: 2名
 - 学生代表: 2名
 - ・特定領域の専門家代表:1名~9名
- 多様なレベルの意思決定組織に参画
 - ・ 理事会の下に置かれる委員会など

>> 学生の声の集め方 (例)



出典:BCUSUのHP(<u>https://www.bcusu.com/ideas/</u> アクセス日:2024年6月21日)

>> 学生の声の集め方 (例)



出典:BCUSUのHP(https://www.bcusu.com/ideas/passed/?idea=176#idea176 アクセス日:2024年6月21日)

>> 参画の成果 (例)

- BCUSUの独自調査(アンケート)の結果、物価 高騰に苦しめられる学生像が明らかとなった。
 - 特に、食費の高騰が問題視された。
- そこで、大学の食堂で提供する食事の割引を、 大学の営利サービス部門(Commercial Services Team)と交渉した。
- その結果、食事は40%の割引を、飲み物は 25%の割引を、それぞれ保証してもらえた (BCUSU 2024)。

» まとめ

- イギリスにおける大学ガバナンスへの学生参画は、 北欧とは異なり、法的に保証されるものではなく、 外部質保証の評価基準として、国レベルで実施を 求められるものである。
- ・学生参画に関わる大学や学生の役割は、両者間で 結ばれた同意書に記載される。
- ・学生代表は選挙で選ばれ、代表の誰が、どの意思 決定組織に参画するかは、学生組合が決める。
- ・学生の代表性は、学生組合のフィードバック・ ループ・システムなどによって担保される。

>> 日本への示唆 (1/2)

- 内部質保証への学生参画を効果的に実施するには、
- 大学ガバナンスへの学生参画が欠かせない。
- ・なぜなら、
- ・ (ガバナンスへの参画が欠けると) 学生が改革案を提示しても、 その案がその後に学内でいかに扱われたかを確認でき ないため。
- 学生に徒労感を与えてしまうため、内部質保証への参画も、形骸化すると予測できる。

>> 日本への示唆(2/2)

- 大学ガバナンスに学生が参画するにあたって、下記の項目について、学生と大学との間で同意書を作成することが望ましいと思われる。
 - ① 学生の誰が、
 - ② どの会議に、
 - ③ どの立場で、
 - ④ 何を目的に参画すべきか?



ご清聴ありがとうございました。

本発表は、下記の研究助成金の成果の一部です。

▶ 基盤研究(B) (R6-R10) 「大学ガバナンスへの学生参画 学生の役割と 得られる利益に着目して」(24K00429)研究代表:田中正弘

>> 参考文献

- Birmingham City University Students' Union (2024) Interim Executive Officer Reports, July 2023- April 2024
- Day, M. and Dickinson, J., (2018) *David versus Goliath: The past, present and future of students' unions in the UK*, Higher Education Policy Institute
- 田中正弘(2024)「イギリスの大学における教育評価への学生参画―「学生意見書」(student submission)に着目して―」『比較教育学研究』(日本比較教育学会)第69号、5-24頁。
- Quality Assurance Agency for Higher Education (2018a) UK Quality Code for Higher Education, QAA
- Quality Assurance Agency for Higher Education (2018b) UK Quality Code for Higher Education - Advice and Guidance: Student Engagement, QAA